

音楽科

| 音楽科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて | |
|--|---|
| ア 知識及び技能 | イ 思考力、判断力、表現力等 |
| 曲想と音楽の構造との関わりを理解すること 創意工夫を生かした表現を行うために必要な技能を身に付けること | 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫すること 音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにすること |

| | 生徒の学力の状況（課題） | 授業における具体的な手だて | 手だての実施時期 | 成果検証（2月） |
|------|---|--|----------|---|
| 第1学年 | <p>ア 小学校時は、読譜の機会はさほど多くないと思われる。強弱記号等の基礎的な知識は概ね身に付いているが、楽譜を読むことの重要性をまだ理解できていない生徒がいる。</p> <p>イ 感性豊かな生徒が多い。しかし感じたことや考えたことを言葉として表現することが難しい生徒がいる。特に正しい文字や文章を書くことが苦手な生徒が少なくない。</p> | <p>ア 基礎的な事項は、安易にタブレットで検索するのではなく、楽譜の記号に印を付けたり、調べた読み方や意味にも必ず印を付け、楽譜に書き込んだりすることで、繰り返し確認する。</p> <p>イ 文章表現の基本的なパターン学習や、批評文等に最低限必要な語句の書き取りを随時行う。また、生徒が記述したものを読み上げたり、ロイロノートを活用して紹介したりしながら、表現のヒントを与える。</p> | 常時 | <p>ア 既習事項について「忘れてら自分で書いたり印を付けたりしたところを見直して確認する」という習慣を身に付けさせたい。引き続き声掛けを行う必要がある。</p> <p>イ 「漢字を正しく使って書く」ことが未だ苦手な生徒がいるが、文章としての表現の幅は広がってきた。</p> |
| 第2学年 | <p>ア 日常的に日本の伝統的な音楽に触れる機会が少ないため、経験不足から知識も乏しい。</p> <p>イ 楽曲の表現に関して、まず詞の内容を十分に理解することが難しい生徒がいる。さらに、作曲者の意図を汲みながら主体的に表現の工夫を考えられる生徒は多くない。また、正しい文字や文章を書くことが苦手な生徒が少なくない。</p> | <p>ア 日本の楽器を実際に見て、その音色を生で聴きながら日本の伝統的な音楽について学習させる。</p> <p>イ ワークシートを活用し、場面をしばって、そこにある表現記号の必要性やねらいを考えさせる。また、一つの質問を複数の生徒にし、他の生徒の答えを聞く機会を多くもつ。さらに、批評文等に最低限必要な語句の書き取りを随時行う。</p> | 常時 | <p>ア 日本の楽器の実物と唱歌（しょうが）を通して、日本の文化への理解が深まっていることが、生徒の記述から見て取れた。</p> <p>イ 「漢字を正しく使って書く」ことが未だ苦手な生徒がいるが、グループでの考察の場面では活発に意見交換ができた。</p> |
| 第3学年 | <p>ア 多様な音楽とそれぞれの文化や歴史的背景との関係について、興味関心をもって学習することができる。</p> <p>イ 楽譜に示されている記号に関して、なぜそこでその表現が必要であるのか、作曲者の意図を理解して表現することがまだ難しい。</p> | <p>ア 音楽史の学習と平行して多様な音楽の鑑賞の機会を多くもつ。</p> <p>イ ワークシートを活用し、作曲者の意図やそれに基づく表現の工夫などを具体的に考え、実際に表現する際のイメージをパートやクラス全体で共有できるようにする。</p> | 常時 | <p>ア 社会科で学習したことと照らし合わせながら、興味関心をもって鑑賞を行っていた。</p> <p>イ 表現の工夫やその根拠について、少人数のグループで積極的に意見交換をすることができた。</p> |

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現に向けた一人一台
端末等 ICT の効果的な活用について

- 批評文や創作作品、ワークシートの記述などをロイロノートで提出させ、添削したり、クラスの中で共有したりする。また、アンケート機能を活用し、クラスや学年みんなの考えや意向をその場で確認する。
- ガレージバンドで演奏練習をしたり、創作の際の音源として活用したりする。
- グーグルクラスルームにアップした音源で、合唱のパート練習をする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学び
に向かう力」の育成に向けた取組について

- 本時の目標設定とその成果の振り返りを毎時間行い、記録する。
- 比較的達成感を得やすい聴音（満点体験）を継続的に行ったり、創作や楽曲分析、鑑賞に時間をかけたりすることで、歌や笛の実技が苦手な生徒でも積極的に音楽の学習に取り組めるようにする。
- 歌唱テストは個々の端末で録画し、自分の演奏を客観的に振り返ることができるようにする。